

兵庫県ゼフィルス採卵紀行 (1)

勝 屋 潤

1. 美方郡美方町

(1) 1982年11月13日

午前5時起床。新聞によると日出は6:30。まだ1時間半もある。やたら寒い朝である。朝食をとらずにエンジンをかける。第2神明、加古川バイパス、姫路バイパスから播磨有料道路に入る。今年から生野まで延びている。ここで夜明を迎える。本日の天候暗れ。国道312号線から9号線へ出る。関宮町を通過し、八井谷峠を越えると美方郡下に入る。村岡町を北上し春來峠の手前で南下すると美方町である。美方高原、小代等のスキー場が多い。沢沿にウラジロガシが目につくようになる。西側の斜面は紅葉が美しく、その中にこんもりとした深緑のカシがよく目立っている。

A.M 9:00 車を止めてあたりを散策。大規模な伐採が行なわれ、スギとヒノキの植林が進んでいる。東側斜面を見て歩く。一面に伐採され上部の尾根沿にかろうじてウラジロガシの大木が残っている。よく見るとこの斜面伐採された跡にウラジロガシとクルミのひこ生えがたくさん出ている。伐採前は当り一面に自生していた様である。

岩と伐採されて放置されている樹木の枯木の間を登る。斜面がきつくても岩や樹木の根際に足をかけて登るのはさほど困難ではないが、このように伐採された跡が放置されているとズブズブと足がめり込み非常に登りにくい。やっとの思いで尾根筋に出てみたが花芽をつけているような勢いのよい木はなく、幹径がせいぜい5~10cmのことが多い。

ひこ生えを見るがヒサマツの卵は見当らない。やはり登らねばならない。1.5mも登れば空間に張り出した枝の頂芽の廻りに、たわいなく卵は見つかった。この枝から4卵採り、その上の枝に足をかけたらメリッと嫌な音と共に折れてしまった。この枝をノコで払い、この木をおりる。改めて木の下でゆっくりと卵を捜す。一応ついているのでホッとする。通常休眠芽の基部の裏側に1卵ずつ、時々2卵。但しこのツインの場合、卵と卵がくっつくようにして産付されていれば同一母蝶のようだが、少し間隔があれば異なる母蝶によって産付された可能性が強い。

通常裏側であるが、枝によっては曲がりくねって表が地面に向っているものがあり、こういう場合、表に産付される事が多いので、一応両面に注意せねばならない。中には3卵というのがあり、ツイン+1卵となっているので、これも複数の母蝶の可能性が強い。この枝でおもしろかったのは芽のない枝先に2卵と硬い葉裏の基部に1卵が見出された事であった。この木では割と寄生卵が多い。廻りの木が伐採によりなくなった為、直接日光にさらされるようになり、それだけ寄生率も高くなるのであろうと思われた。ヒサマツの場合、卵寄生を受けると、他の卵のように

横に穴があいているのは少なく、卵の上面半分がほとんどなくなっているのが多い。持っておりた枝を見終えると他によさそうな木もないので斜面を下る。途中にヤマザクラがあったが、メスアカはついていない。山道にまでおるとオニグルミが多く自生しており、オナガシジミの卵はかなりついている。オナガの場合は食樹の休眠芽の基部に5割、小枝の分岐部に5割の割でついているが、分岐部にはまとめて産付されている事が多いようである。しかしオナガは食樹の関係上、飼育が困難であるのであまり採らないようにした。

少し休息して西側の斜面に取りつく。花芽の木を捜すが見当らないので、適当に登り易そうな木を選んで樹上に腰をおろす。真横に張り出した枝の基部に5cmぐらいのひこ生えが1本生えており、その先の休眠芽が白くなっているのが見えた。よく見ると、なんとアイノのツインである。ヒサマツより1廻りも2廻りも大きくトゲトゲが肉眼でもよくわかる。全く汚れておらず真白である。ウラジロガシでアイノが採れるとは聞いてはいたが、みたのは初めてであった。

この木にもヒサマツは割に見られたが、中には貧弱な芽にヒサマツ4卵とアイノ1卵がくっつくように産付されていたのもあった。しかし、アイノはやはり少ない。

ヒサマツはある程度採れたので、今度はミズナラを捜し出してアイノに挑戦しようと思うが、大木はなく幹径がせいぜい15cm程度のものしかない。

アイノは上の方に採卵するので登らねばならないが、この木は斜めに斜面の下方に向かって伸びており恐いので、軟弱にもやめてしまう。ひこ生えからはやはり休眠芽の基部にジョウザンが1卵ずつ産卵していた。どちらかというジョウザンよりエゾを採りたいので、幹や枝の分岐部を見るが、そう何もかもうまくいかない。

しかし、やっと1卵。(と思ったが、後に羽化したのはオオミドリの♂であった。)

道に戻り、車をさらに走らせると樹相は一変し、ブナが多くなった。しかし溪流の斜面が急な上にブナはどでかい大木で手も足も出ない。ミズナラとサクラもみられるが、時々、車を止めてみる程度では何もついていない。そろそろ腹も減ってきたし、Uターンし帰路につく。本日、天候にも恵まれ、いい一日であった。

本日の成果

ヒサマツ	65卵	(ウラジロガシ)
オナガ	8卵	(オニグルミ)
ジョウザン	5卵	(ミズナラ)
アイノ	5卵	(ウラジロガシ)
ミズイロオナガ	1卵	(ウラジロガシ)
アカ	1卵	(ウラジロガシ)
オオミドリ	1卵	(ウラジロガシ)

(2) 1983年10月30日

1年ぶりにまた美方町を訪れた。今日はこの付近に用事があり、蝶に無関係の友人(会社の友人)と共に昼過ぎに到着した。友人も1度採卵とやらをやってみたいと言うのでヒサマツを採ろうということになった。実はこの友人、私の標本箱からヒサマツを10頭ばかり持って帰って部屋に飾っている。

時間もないので、昨年場所までは行けない。道沿の楽なウラジロガンを捜すが、さすがにこんな所によい木は残っていない。やはり尾根に向って斜面をヤブこぎする事になった。友人は途中でカキを取っているの、ほっといて1人で登る。ウラジロガンはあちこちにあるが、例によってよい芽をつけた木はほとんどない。

仕方がないので貧相な木に登る。木の上で芽を見るが、さすがについていない。いかげん嫌になっていると友人がやっと登ってくる。その友人の顔を見た直後に最初の1卵が見出された。下で待ってる友人に卵のついていそうな枝を選んで1本投げおとす。彼は一生懸命に芽を見ている。その間に私の方も次々に卵は見つかった。昨年のようにアイノヤミズイロはついていない。ヒサマツの方もツインが1個だけであとは全部シングルである。

木をおりと友人が数卵見つけていた。差し出された卵を見てアッと思った。

Favonius / まさしく Favonius の卵が1卵ウラジロガンの休眠芽についている。オオミドリかジョウザンか? 区別はつかない。残念な事に寄生されている。

なぜウラジロガンに? これは別に考える様な問題ではなかった。私の登ったウラジロガンのすぐ横にミズナラがあり、木の上で交錯している。恐らくミズナラに産卵していたジョウザンが誤ってウラジロガンにも産み付けたものであろう。試しにこのミズナラを調べると、やはりジョウザンがベタベタついてた。例え誤認産卵だとしても珍しい記録である事は間違いない。

一応採れたので早々と引き上げる。足がガクガクしている。帰路サクラとオニグルミを見るが今年はない。美方町一帯はメスアカの記録はあるが、どうも私はここでは採れないみたいである。

本日の成果

ヒサマツ	26卵 (ウラジロガン)
ジョウザン	19卵 (ミズナラ, ウラジロガン)

2. 宍粟郡一宮町～波賀町

(1) 1982年10月30日

山崎インターから29号線を北上する。山崎町から一宮町に入ると安積橋はすぐである。本日の目的は揖保川水系のヒサマツ、メスアカである。

安積橋から進路を右にとる。まず福知溪谷でのメスアカの採卵を手がける事にした。最近の福知溪谷はキャンプ場等のレクリエーションセンターを増設すべく、いつも何らかの工事が行なわれているようである。入口で車を止め山道を登ってゆく。ここはメスアカで有名なので、採卵者も多く入っているようで、道沿のヤマザクラの下枝はほとんど切られてしまって、いい木が見当らなくなってしまった。それでも山道から少しはずれると川沿にはまだまだヤマザクラは多く、ひこ生えのみで楽に採卵できる。最も多いのは細枝の分岐部の廻りである。通常1卵ずつ産付されているのが多く、2卵もかなり多い。木に登る必要はほとんどない。

山道を登りつめていくとキンキマメザクラがよく目につき、特にこれを好むのか小さな木でもかなり産卵されている。

本日はI氏と2人で30卵ずつ採卵したら別の産地に行こうということになっていたの、適当な所で折り返す。車を止めてある近くまで下ってきた時、オニグルミがあったので立止る。オニグルミは折れ易いので私は登りたくないと思っていたらI氏が身軽にもスルスルと登った。枝を1本払って下に落す。この場合、芽を痛めないように切口を下になるようにうまく落とす必要がある。期待していなかったが、この枝にオナガの卵はついていたのである。オニグルミの芽は大きいので、1本の枝でも数える程しかなく、こんな調子で芽を折っていったらすぐに芽のない木になりかねないので、オナガの採卵はすぐに止める。

1つの芽に3卵というのが1つあったが、あとは芽や分岐部に1~2卵ずつである。

車に乗り込み、福知を後にし、さらに上流に行く予定であったが、進路を変更して波賀町に向うことにした。途中、イモが道にころがっており、秋であることをしみじみと考えさせられる。「イモふかし、タバコふかせば、秋深し」。

途中でオナガを採ったり、遅い昼食をとったりしたので時間を食ってしまい、赤西溪谷に着いたのは16:00近くになっていた。秋の山道の日没は早い。17:00になると、もう卵は見えなくなる。残された1時間を我々はウラジログンを捜す事にかけて。川沿にウラジログンは点々とあるが、芽それも良い芽のついている木は少なく、まして花芽となると仲々見つからない。

日暮も間近、やっと1本、ついていそうな木を見つけ調べる。木は大きく芽の状態も大変良いが卵は非常に少ない。二人で必死にみてもわずかしかついていない。

気がつくあたりは真暗になっており、枝の一部を車に積んで帰路につく。翌日調べたら1卵ついていた。

本日の成果

メスアカミドリ	82卵	(ヤマザクラ, キンキマメザクラ)
オナガシジミ	25卵	(オニグルミ)
ヒサマツミドリ	13卵	(ウラジログシ)

(2) 1983年10月23日

本日は宍粟郡の公文、小原地方のメスアカが目的である。福知であれだけ採れるのであるから一宮町一帯にはまだまだ多産地は多いはずである。ところがあいにくの雨である。アクセルを踏む右足が重い。車の窓越しにヤマザクラを捜し、道沿のものだけ調べる事にする。公文あたりではウラジロガシ、マンサク、コメラに混ってヤマザクラも多い。目ぼしをつけた木には少しずつついている。

午後からは大雨になり、外に出られない。P.M 3:00

P.M 3:00 1本のヤマザクラより実に17卵からなる卵塊が見つかった。太枝の分岐部である。少し離れた所からみると真白に見えるのですぐわかる。メスアカの17卵塊は非常に珍しく、私は初めてである。せいぜい2卵~4卵塊しかみたことがなかった。しかし、こういうのに限って(つまり、人に見つかり易いものは)寄生バチにも見つかりやすく、内15卵が寄生されている。それにしてもゼフィルス(ゼフィルス)の卵塊の数のデータを集めればおもしろいではなからうか。コナラからはダイセンが1卵見つかったのみであった。

本日の成果

メスアカミドリ	49卵 (ヤマザクラ)
ダイセン	1卵 (コナラ)

(1983. 11. 23記)

兵庫県におけるアオドウガネの分布 (兵庫県甲虫相資料・144)

高橋 寿郎

山手短大、田中 梓教授が1983年8月26日の神戸新聞自然随筆欄で神戸のポートアイランド南公園でヤマモモをはじめ各種の樹木に群がってヤマトアオドウガネが葉を食っていたと書いておられた。早速筆者も同年9月5日南公園に行ってみた。ヤマモモには注意して見たがこの虫を見付けることは出来なかったが、丁度咲いていたハギ(ミヤギノハギ?)に可成りの数の個体を見た。公園であるから網を持って行っていなかったが、害虫駆除と手でもって25♂♂ 13♀♀を採集して持って帰った。帰宅後交尾器を摘出して詳しく調べて見たが、筆者が採集して帰ったものは全部アオドウガネと同等すべきものであった。田中教授との観察時期が違うので此の公園にはヤマアオドウガネと両方いるのかもしれない。ところでアオドウガネの方が県下にどの様に分布しているのか、筆者の手許にそ